

『評価ブックひろしま』の活用について

1 『評価ブックひろしま』の目的と特徴

- エクセルを使った自己点検の提案 -

本ブックは、生涯学習プログラムの参画者（企画・立案者を含む）が、当該プログラムを計画・実施・評価していく過程を自分自身で振り返り点検していく上での道標となることを目的として開発されました。こうした点検作業を通じて、プログラムの適正な評価が実施されると同時に、プログラムの開発過程に必須の要素と観点を点検者自身が確認・修得できるという特質を本ブックは持っています。これは、評価のための評価に終始するのではなく、評価することそのものが学びにつながり、評価主体者が学習者にも成りうるような評価法こそが、生涯学習に関わる支援者の在り方として相応しいのではないかという考えに拠るものです。

ここでいうプログラム開発は、最初に立てた計画を効率的かつ円滑に実施・評価することこそが最重要課題であるという、計画・実施・評価の段階を固定化させて直線的に捉える従来の考え方から転換し、開発過程でよりよい選択肢を見つけ出したならば必要に応じて計画・実施・評価の更新が可能であるという考え方に基づいています。そこで、本ブックを用いて点検作業をしていく中で、プログラムのある部分に変更を加える必要性を感じたならば、計画や実施の途中であっても関係者・関係諸機関の協議のもとプログラムの見直し・改善を行うことを推奨します。評価主体者とともにプログラム自体も進化・伸張していくような評価のあり方を、本ブックでは模索しています。

具体的な点検方法としては、プログラム開発の基本的な過程を8つの段階に分け、これをベースと考え、プログラムの特性や今後の社会動向等に応じて段階を増やすことも想定しました。さらに、それぞれの段階を構成する項目を策定し、その項目1つずつを、プログラム参画者自身により点検してもらうという方式をとることにしました。これは先に述べたとおり、プログラムの計画・実施・評価の過程を自分自身で振り返り点検する道標となることを、本ブックが志向しているゆえです。

ところで、この方式で従来の印刷媒体（紙）を利用した評価シートを作成すると、項目数はベースの部分だけで65項目となり、各段階につきを1枚の紙を当てるとベースの部分だけで8枚の評価シートが印刷されます。これでは、「評価」に対する拒否感をさらに煽ることになるでしょう。そこで、プロジェクトメンバーで協議を重ねた結果辿り着いたのが、パソコンを利用したエクセル画面での自己点検であった。プログラム開発過程の各段階をエクセルでいうところのシートに当て、すべてのシートを束ねたもの

をエクセルでいうところのブックに当てました。自己点検する際には段階に応じて、ブックのなかの1つのシートをクリックしての画面に出すことになるので、印刷媒体として8枚以上の用紙を準備するよりも負担感は減るのではないかと推察しました。エクセルを活用するメリットは、負担感の軽減や資源の節減にとどまらず、汎用力の高さ・広さや保存・ふり返りのしやすさ、点検時間の縮減等も想定されました。さらに、点検した項目を数値化し、各段階の平均点を総合的に把握できるレーダーチャートを自動的に作成できるようにしたことで、自分の力量を相対化したりプログラムの改善が一層しやすいようになるなどの特長も出てきました。

2 『評価ブック』の枠組み

(1) ブックの構成

本ブックでは、プログラムの概要を書くためのシートを最初に付し、同プログラムの開発過程について点検していくために必要な要素と視点を以後の複数のシートに含めています。プログラム開発過程に必須と思われる基本的な要素は8つに分類され、A～Hのシートに区分して反映させています。シートI以降は、プログラムの特性に応じて必要だと思われる要素・視点を、点検者自身によって加えていくことができるようになっています。現時点では、時勢の要求に対応して、シートIとして「連携・協働，参画」，シートJとして「まちづくり」を評価の視点に加えています。

さらに各シートには、必須だと考えられる基本的な評価項目を10項目前後掲げています。この評価項目もプログラムの特性次第で点検者により増やすことができます。評価項目にそってプログラムを点検することで、プログラム開発が十全に行われているか否かを確認することができます。このように、必須と考えられる基本的なシート・項目のみを提案し、点検者自身により追加のシート・項目を掲げていくことができるような仕組みをとるのは、目的のところすでに触れたように、本ブックが点検者の能力開発ツールとしても機能することを想定しているゆえです。

(2) ブック内の各シートの意味

プログラム概要シート

評価対象とするプログラムの概要を記してきます。本シートには、プログラム目標（当初のもの・最終的なもの）、具体的な内容、成果と評価、活用、今後の課題について、学習面と運営面の両方について記入できるようになっています。

基本評価シート

A 学習者理解とニーズの把握

目標を設定する上で、前提として、学習者特性とニーズについて適切に把握できているかどうかを点検します。

B 学習目標の設定

プログラム開発過程で最も重視すべきは学習目標の設定である。学習目標が、成果の評価にいたるまでの各要素を決めると言っても過言ではない。ただし、ここでいう学習目標は可変的なもので、よりよいプログラムにしていくためならば途中変更が可能です。

C 学習活動の計画

学習目標にそった学習活動の計画が適切になされているかどうかを点検します。計画も途中変更可能です。

D 参加の促進

学習者がプログラムに参加しやすい工夫がなされているかどうかを点検します。

E 学習活動の実施

計画が適切に実施されているかどうかを点検します。

F 学習活動・継続支援

プログラムの参加者の学習活動が深化・拡充，継続・発展していくように工夫されているかどうか点検します。

G 学習の評価・活用

目標にあった評価が適切になされているかどうか，学習成果の活用を視野に入れているかどうかを点検します。

H 運営面の計画・実施・評価

プログラムの計画・実施を通じて，学習目標のみならず，運営面での目標を達成することも想定しているかどうかを点検します。

追加評価シート

I 連携・協働，参画

プログラムの計画，実施，評価の各段階において，関係者・関係諸機関（行政，行政内部局間，学校，NPO，地域団体等）の間で連携・協働体制が十分に発揮できるような仕組みや内容となっていたかを点検します。

(3) 各シート内を構成する各欄の説明

いずれのシートとも，次の7つの欄から構成されています。

[評価項目]

各シートで必須だと考えられる基本的な項目をあげています。プログラムの特性次第でさらに追加の項目が必要だと思われる場合には，点検者により挿入できます。

[自己採点]

評価の観点を参考にしながら，1～5点の範囲で自己採点することができます。点検者の主観が入る余地が大きいため客観的なデータとして捉えることはできないが，点数化・グラフ化・レーダーチャート化等を行うことにより，プログラムのどの段階にとくに問題を抱えていたのかを発見できたりプログラムとしての相対的な進歩の度合いを測ったりすること等ができます。

[自己評価コメント]

各評価項目について，振り返って特記すべきことを覚え書きとして残しておくことができる欄です。点検者自身はもちろん，関係者や後続のプログラム担当者にとっても参考になると思われます。

[評価の観点]

自己採点欄の1・3・5点の基準となるような観定の例を掲げてあります。自己採点する際の参考となります。

[関連項目]

参考までに，当該評価項目と深く関わる項目のシート・評価項目番号を掲げてあります。点検者自身が評価項目間の関連づけの覚え書きの欄として使用することも可能です。

[平均値]

シート毎の自己採点の平均値を算出する欄です。この平均値をレーダーチャートにすることで，プログラムのどの段階に問題があったのかを解析することが可能です。

[総括と改善計画]

自己採点や自己評価コメントを参考にしながら，シート毎の総括と改善計画を書く欄です。点検者自身はもちろん，関係者や後続のプログラム担当者にとっても参考になると思われます。